



城南中だより

12月号 令和7年11月28日発行 第9号

〒339-0034 さいたま市岩槻区笹久保577 <http://jounan-j.saitama-city.ed.jp/>
TEL 048-798-0007 さわやか相談室直通 048-797-0514

学校教育目標
希望と愛をはぐくむ
美と活力の学校

修学旅行の行方

校長 吉原誠士

令和9年度の修学旅行（現1年生）出発日が5月20日に決定しました（現2年生は令和8年6月11日発です）。関東地方の多くの中学校が旅行先として京都・奈良方面を選択しています。同時期・同日に学校ごとに計画すれば鉄道や宿舎の予約に困難を生じるので、「関東地区公立中学校修学旅行委員会」という組織が新幹線の輸送計画を立て、各校の出発日を決めています。近県も含めて多くの学校が協力して日程を分散させています。特急料金が50%割引で費用の軽減が可能になり、1年半前に実施日がわかっていることで、宿舎も早期に決定できるようになります。

関西方面へはここ数年はオーバーツーリズムと言われていて、中学生の班行動で市バスに乗車できない、ホテル料金が高騰するなどの問題が生じています。団体客を受け入れる宿も減っています。このような情勢を受けて、本校も令和5年度には北海道を選択しました。この行事の目的には「自主的な活動体験を通じたその実践力の向上」や「社会人としての資質の向上」が強調されていますが、行き先がどこであれその成就是可能です。ここで「日本の文化と歴史の発祥の地を訪ね、歴史的視野を広げ、伝統文化を受け継ぐ心を育てる」というねらいを考慮し、京都・奈良に足を運びたい心情が生じるのは仕方ないことでしょう。

さて、秋に入ると多くの中学では3年生の「面接練習」が行われます。受験科目に個人面接が含まれる学校は少ないので、改めて一人ひとりを知るよい機会としています。以前は3年間の思い出を聞くと「部活動」「林間学校（自然の教室）」「修学旅行」に集中していました。しかしここ数年は日常生活や行事が挙がることが多くなり、訪問地（寺社）を思い出せない子どもも増えていました。家族旅行も含めてあちらこちらに旅をする機会が増えた影響もあるかと思われます。そうなると、「旅行・宿泊的行事」について、「家を離れて友だちと過ごすことにワクワクする」心情だけを捉えて、行き先や行動形態等を見直さざるを得ないのかなとも思えてきます。

クラス丸ごと“観光バス”に乗せられてバスガイドさんの旗に従って名所めぐりをしたのは遠い昔の形態です。教員になって7年目、主担当として「班別行動」を企画、安全面に配慮したコース決め資料を作るために3泊4日の下見を敢行しました。現在では厳しい暑さの中で生徒の健康維持の問題も浮上しています。文部科学省からも集中回避のための日程や行き先に関する呼びかけが行われています。様々な判断材料が並ぶ中、修学旅行の新たな方向性を示せるよう考えています。変化の大きな時代、ご意見があればお聞かせください。

「花笑み学校」として「伝統文化とのつながり」も意識していきたいですね